大分合同新聞
www.oita-press.co.jp
4/18 月曜日　夕刊
創刊1886年（明治19年）
大分合同新聞社
〒870-8605 大分市府内町3-9-15
© 大分合同新聞社 2016
大分 097-536-2121　別府 0977-22-2121
FAX 097-538-9674　FAX 0977-25-1230
朝夕刊　完全連続紙
単独販売の朝刊、夕刊、統合版はありません。

まとめ読み　大分合同新聞 プレミアムオンライン Gate ゲート
「注目まとめ」コーナーでこれまでの「熊本地震」の過去記事も読めます。

熊本地震

避難所初の死者

阿蘇、77歳関連死か

熊本、大分両県を中心に相次ぐ地震の被災地は18日、週明けの役場業務や企業活動が再開した。庁舎が損壊した熊本県の宇土市、八代市、益城町では業務が一部停止し、役場機能がまひした。避難者は18日午前も熊本、大分両県で計約10万5千人に上ったが、交通網寸断で、避難所や店舗は物資不足が深刻化。熊本県阿蘇市では初の震災関連死とみられるケースを確認した。気象庁によると、震度1以上の地震は500回を超え、安倍晋三首相は18日、激甚災害指定について「その方向に向けて決定していきたい」と述べた。（2、10、11面に関連記事）

土砂崩れ現場で行方不明者を捜索する自衛隊員＝18日午前9時43分、熊本県南阿蘇村河陽地区

警察庁によると、熊本県では400棟が全壊し、1262棟が半壊。死者は42人、けが人1096人。県によると、9人が安否不明となっている。土砂崩れなど被害の大きかった同県南阿蘇村では、負傷者の生存率が急激に低下するとされる発生から72時間が迫り、行方不明者の捜索が再開された。

宇土市役所は倒壊寸前で、立ち入れなくなっている。八代市も余震で倒壊する恐れがあるとして、18日から市役所本庁舎を封鎖。熊本市は地震で行政システムのホストコンピューターが故障し、児童手当や生活保護といった業務ができなくなった。

物資の不足は道路の通行止めなどで物流が混乱し、拠点までは荷物が運ばれても、末端の避難所や店舗まで行き届かない状態になっている。熊本市が18日午前開いた対策会議では「避難所の朝食が足りない」との報告が相次いだ。避難所を運営する市職員らの人員も足りなくなっている。

政府は、被災者向けに提供する非常食を90万食から180万食に倍増する。

阿蘇市の避難所では、市内の女性(77)が17日に死亡していたことが判明。避難によるストレスなどが原因となった震災関連死の可能性があり、死因は急性心不全。

県内「地震活動なお活発」

避難している人と話す広瀬勝貞知事（左）＝18日午前、由布市湯布院町

熊本、大分両県を震源とした地震は18日も続いた。同日午前0時から同9時の間に、両県で震度1以上の揺れは27回発生しており、大分地方気象台は「活発な地震活動は続いている。十分に注意してほしい」と呼び掛けている。大分県のまとめでは、地震による県内の負傷者は23人。広瀬勝貞知事は同日、被害が大きい由布市湯布院町を視察した。

気象台によると、大分県内で震度3以上の揺れは、17日午後6時25分を最後に確認されていない。14日夜に熊本県を震源とした地震が発生してからは計55回観測されていた。気象台は「今後、少なくとも1週間は5弱、5強の地震もあり得る」と指摘している。

18日午前7時現在、別府、由布、竹田など11市町で計約1300人が体育館などに自主避難している。中津、日田、九重など7市町の2千世帯以上で断水や給水制限が続いており、給水車などで対応している。

中津市は同市耶馬渓町深耶馬の深瀬集落（16世帯27人）に出していた避難勧告を18日に解除。竹田市は約1万世帯への避難準備情報を17日午後5時までに解除した。別府市は18日午前、罹災証明申請に関する窓口を市役所1階レセプションホールに設けた。

県内の高速道路は大分自動車道の別府インターチェンジ（IC）―玖珠IC間と速見IC―日出ジャンクション間で通行止めが続いており、規制解除の見通しは立っていない。

JRは久大線の湯平―南由布間で最大約40㌢の落石が見つかり、一部列車に遅れが出ている。観光列車「或る列車」（大分―日田）は終日、運転を見合わせた。豊肥線は熊本県内での土砂崩れの影響で、豊後竹田―熊本間が不通。特急列車「九州横断特急」は運休している。

（取材班）

お断り　「伝える戦争の記憶」は休みます。

72時間にらみ 不明者を捜索

熊本、大分両県を中心に14日以降相次ぐ一連の地震で、警察や消防などは18日朝、土砂崩れなど被害の大きかった熊本県南阿蘇村で行方不明者の捜索を再開した。熊本県は18日、南阿蘇村で安否不明者のうち2人は無事だったことが分かり、連絡が取れないのは9人になったと明らかにした。

16日未明の地震から、負傷者の生存率が下がるとされる72時間が経過するのをにらみ、県警などは捜索を通じて安否の確認に全力を挙げる。

南阿蘇村の捜索は、自衛隊や他の県警なども加わり、数千人態勢で展開。倒壊家屋や土砂崩れの現場などを集中的に当たる。

HPで紙面公開

熊本、大分両県で強い地震が相次ぎ、被害が広がっています。紙面の一部を本社ホームページ・Gate（http://www.oita-press.co.jp）で公開していますのでご覧ください。

大分合同新聞社

続く避難所生活、長期化する可能性。熊本県阿蘇市では女性が死亡。日常を取り戻せるのはいつ。

▽

絶たれた高速道に線路。豊肥線では復旧の見通し立たない所あり。九州の交通網への影響大きく。

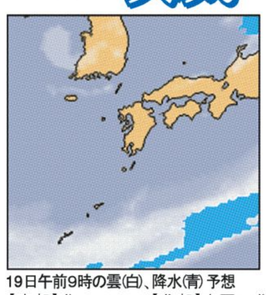
避難所では炊き出しも。自然には逆らえないのかもしれないが、人々が育んできた助け合いの心。

▽

「笑顔で頑張れ」―。活を入れられた熊本県益城町出身の永野。ツアー初優勝はならずも3位に。

公転 自転

あすの天気


19日午前9時の雲(白)、降水(青)予想

	朝	昼	夜
県中部 10～22度	0％	0％	0％
県南部 8～21度	0％	0％	0％
県北部 9～19度	0％	0％	0％
県西部 6～22度	0％	0％	0％

▷風向　【中部】南～北　【南部】北　【北部】南西～北西　【西部】南西～北
▷波高　【中部】0.5～1㍍　【南部】1～1.5㍍　【北部】0.5～1㍍

九州は大きな晴れの区域に覆われ、県内も雲の発生が少ない一日。朝は内陸部では霜が降りるような寒さになりそう。日中は暖かく、朝と昼の気温差が大きい。気温の変化に注意を。（日本気象協会）

福岡	鹿児島	沖縄	大阪	東京	札幌
0	0	20	0	10	30

県中部地震

1975年4月21日午前2時35分ごろ、九州中部から北部にかけて強い地震が起こった。大分地方気象台と阿蘇山測候所では震度4を観測。後日の調査によると震源地付近の震度は6程度と推定された。県内の旧5カ町（庄内、湯布院、九重、直入、野津原）では、この地震によって建物の倒壊や道路の決壊、山崩れ、墓石の転倒などかなりの被害が生じた。特に、震源地に近かった現由布市庄内町内山地区では、ほとんどの家屋が全半壊した。地震列島日本。常に大地震の心得を。（日本気象協会大分事業所）

気象歳時記

©1976, 2015 SANRIO CO., LTD.　APPROVAL No.G562315